

## コロンビア国別評価〈概要〉

### 評価者(評価チーム)

- ・評価主任 高千穂 安長 玉川大学教授
- ・アドバイザー 砂川 眞 国際教養大学特任教授
- ・コンサルタント (株)コーエイ総合研究所

評価実施期間: 2013年6月～2014年2月

現地調査国: コロンビア



### 評価の背景・目的・対象

本評価は、コロンビアの持続的な社会経済発展を実現するために日本が実施してきた対コロンビア支援に係る政策全般(2003年度以降に開始された協力)を対象とする。本評価の目的は、①今後のODA政策の立案や実施のための教訓や提言を得ること、②ODAの広報とODAの改善や見える化の促進に寄与することであった。

### 評価結果のまとめ(総括)

日本の対コロンビア援助は、総合的評価として「満足な結果」であったと判断した。

#### ●開発の視点

##### (1) 政策の妥当性

日本の上位政策・戦略、コロンビアの開発計画、国際的な優先課題との整合性、他ドナー支援との整合等の観点から、全体として極めて高い妥当性が認められた。

##### (2) 結果の有効性

「平和の構築」と「社会開発と社会的公平の構築」分野において貢献が大きかった一方、限られた援助投入量の下、「持続的経済成長」と「環境問題と災害への取組」分野において直接的な貢献は限られていたものの、全体としては一定の貢献が確認された。

##### (3) プロセスの適切性

対コロンビア援助政策の策定・実施プロセスは、適切に実施された。ただし、日本側の政策実施に係るモニタリング・評価の実施については今後も改善が望まれる。

#### ●外交の視点

外交の視点においては、日本の協力の投入量は限られているものの、安定的・継続的に協力の実績を重ねてきたことにより、両国間の外交関係が強化されてきたと評価する。また、両国間における経済関係の深化の観点においては、日本の対コロンビア協力による波及効果が出始め、今後より一層の効果の発現に向けた尽力が期待される段階であると判断される。

## 主な提言

### (1) 民間セクターのニーズに応える協力

日本の対コロンビア支援は、コロンビア側の開発ニーズに対応し、かつ日本の民間企業進出の後押しとなるような協力を実施するためのコロンビア側民間企業の育成及びインフラ整備などに係る現況・ニーズ確認調査を行って、具体的な協力を検討するのが望ましい。

### (2) 地域開発を通じた格差是正に資する支援

日本がこれまで実績を積み上げてきた平和構築分野での協力を礎として、紛争被害者や社会的弱者への配慮など社会的包摂の観点に留意しながら、日本は一村一品運動にかかる技術協力や地方部のインフラ整備など、地域間格差の是正に資する協力を今後も継続的に実施していくことが期待される。

### (3) 日本に比較優位性がある防災協力への継続的な支援

コロンビア側のニーズや高い期待にとどまらず、地球規模課題への取組といった外交的な重要性や自然災害に強いインフラ整備による経済関係へのインパクトといった波及効果の観点からも、日本のコロンビアに対する防災協力は今後も継続的に支援が求められる分野であると考えられる。

### (4) 開発効果増大に向けた一層効果的な支援アプローチの検討

援助投入量が限られている中、日本の ODA が有する様々なスキームを組み合わせ、また他ドナーとの戦略的な連携強化によって、より効率的かつ相乗効果を生み出すような協力を促進していくことが望ましい。さらに、日本の民間企業進出支援に向けて、近年実現に至ってこなかった円借款の供与も絡めたスキームの拡大が今後期待される。また、日本の ODA と国際協力銀行(JBIC)等の政府資金による投資金融との連携も含めた、幅広い協力の在り方にも着目していくことが望まれる。

### (5) 近隣諸国への波及効果が高い技術普及支援

コロンビア国内における貢献のみならず、近隣諸国への技術普及の担い手となりうるような協力を視野に入れ、コロンビア政府を後押しするような技術協力を引き続き継続することが期待される。協力分野としては、防災分野や生産性向上・品質向上等、日本に比較優位性のある分野への協力が考えられる。



日本が供与した  
太陽光発電学  
習機材



日本が支援してい  
る一村一品運動